Hopeful Touch
لمحة الأمل

特定非営利活動法人

ホープフル・タッチ

INDEX

01 page 2

団体の目的・ミッション

02 page 3

団体の歩み

03 page 4

ホープフル・タッチの活動

04 page 5 - 8

活動紹介

05 page 9

SDGsへの取り組み

06 page 10

ご協力のお願い

ホープフル・タッチとは

国際社会から忘れられた弱い立場にある子ども達に手を差し伸べ、コミュニティの発達を通じて子どもの発達と平和を促進し、子どもが子どもらしく成長できるよう活動する団体。

団体の目的

災害や飢餓貧困、劣悪な社会環境下で生きる子ども達の権利の保護・実現に務めることで、国際社会における子どもの平和と発達の促進に寄与する。

団体のミッション

ミッション1：
災害や貧困など複合的な社会的困難により剥奪された子どもの権利を保護する。

ミッション2：
社会的困難により派生した長期的課題へ取り組み、子どもが発達する力の促進を目指す。

ミッション3：
子どもひとりひとりの声を尊重し、子ども自身の主体的参加を促す。

ミッション4：
子どもに対する社会的無視を根絶する。

ミッション5：
社会的困難の影響が日常となった子どもの現状を映像化し、実情を世界へ発信し理解を深める。

団体の歩み

ホープフル・タッチは2016年3月に任意団体として発足し、2017年3月に特定非営利活動法人として法人化しました。
これまでに、内戦のためトルコに避難したシリア人の子ども達、内戦下で過ごすシリアの子ども達、慢性的貧困下にあるスーダンの子ども達、水上コミュニティで生活するカンボジアの子ども達を支えてきました。
2022年度はシリアとスーダンにて活動しています。

ホープフル・タッチの活動は、シリア内戦開始後のトルコで出会い、ビジョンを共有したシリア人2名と日本人1名による小さなボランティア活動から始まりました。
これら3名はそれぞれ、キャンプ外で生活する避難民の方々への緊急人道支援を実施するNGOに勤務し、シリアとの国境県にて大規模な食糧支援に当たっていました。
この緊急支援事業を通じ、最低限の生活水準でテント生活を送る1,000世帯以上のシリア人家族と出会い、多くの家族や子どもから「行かれる学校がない」、「とにかく勉強がしたいのになにもできない」という声を日々聞いていました。
この頃は、キャンプ外の市郊外農村地にシリア人学校がなく、村にあるトルコ公立学校も積極的にシリア人を受け入れてはいませんでした。勤務先では子どもへの支援を実施しておらず、他の支援機関の活動は市内中心に集中しており、遠隔地である農村地では教育支援が実施されていませんでした。
この状況に対し、支援から取り残された子ども達へ最低限の学ぶ機会を提供する、小規模ながらも自分達で実現できる活動を始めたいという想いから、団体を立ち上げました。

シリア難民の子ども達との活動を通じて、世界中で、国際社会から忘れられた弱い立場にある子ども達を見守る必要性を認識し、カンボジアやスーダン、シリア国内でも活動を実施してきました。

団体名称「ホープフル・タッチ（Hopeful Touch）」は、いかなる社会環境にあっても、子どもが希望をもって成長できるよう、弱い立場にある子どもに手を差し伸べ、子どもの発達と平和を手助けできるよう想いを込めて付けました。

主な活動実績	
2016年3月	任意団体Hopeful Touch発足
2016年3月～ 2016年7月	【トルコ・シャンルウルファ県】 シリア難民の子ども達へのHome Teaching活動
2016年7月	トルコにてNGO登録完了
2016年8月～ 2020年4月	【トルコ・シャンルウルファ県】 インフォーマル・テント教室の設置と運営
2017年2月～ 2017年12月	【トルコ・シャンルウルファ県】 シリア難民の子ども達に健康を届ける緊急支援
2017年3月	特定非営利活動法人として法人化
2018年1月～ 2021年3月	【カンボジア・コンポンチュナン州】 水上コミュニティの子ども達への教育支援
2018年10月	スーダンにてNGO登録完了
2019年3月～ 現在	【スーダン・ハルツーム州】 小学校での学校菜園とライフスキル教育の向上
2019年4月～ 現在	【シリア・ラッカ県】 内戦で障がいを負った子ども達への義肢提供 学ぶ機会のない子ども達への教育・心理社会的支援

ホープフル・タッチの活動

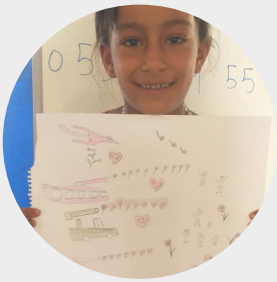
困難な状況にある子ども達を支えるため、主に4つの分野で活動しています。

01

教育

施設整備や登下校手段の確保、活動運営によって教育へのアクセスを生み出し、最低限の読み書きができるよう学習環境を整えます。

【これまでの活動例】
- シリア難民の子ども達への学習機会の提供
- カンボジア水上学校での通学ボートの運航
- スーダン農村地の子ども達の学習環境の改善



02

子どもの保護

安心・安全な環境で健康に心身発達が促進できるよう、子どもの生活コミュニティにおける心理社会的サポートを実施します。

【これまでの活動例】
- 学習環境におけるチャイルドフレンドリースペース機能の促進

03

保健・栄養

緊急人道的介入を必要とする子どもや、慢性的貧困下にありコミュニティにおける持続的取り組みが必要な子どもの健康状態を改善します。

【これまでの活動例】
- シリア難民の子ども達への食糧バスケット、衛生キット、救急セット、マルチビタミンシロップの配布
- スーダン公立学校における学校菜園の設置、運営
- 食に関するライフスキル教材の作成

04

子どもの参加

子どもやコミュニティ自身がもつ力を引き出しながら、子ども同士の国際交流参加を通じ困難な現状を伝え、社会にポジティブな変化を起こすことを目指します。

【これまでの活動例】
- 活動地と日本の子ども達の交流と相互理解を創出するアートプロジェクト

活動紹介
トルコ -シリア難民の子ども達-

2011年から続き、未だ安定の兆しがみえないシリア内戦により、560万人以上のシリア人の方々が2022年現在も"難民"として他国で生活しています。トルコには最も多い365万人以上が生活し、その約半数が18歳以下の子ども達です。
私達は2016年3月から、シリアとの国境県の一つ、シャンルウルファ県の農村地域で活動を始めました。支援機関や社会福祉サービスが集中する市中心と異なり、農村地域では広大な農地に点々とシリア人家族が暮らすテントや手造りの家がみられるのみで、活動を実施しようとする団体もほとんどありませんでした。当時はシリア人を対象とした教育機関もなく、トルコの公立学校ではすべての科目がトルコ語で、アラビア語が母国語のシリア人生徒には対応しきれていませんでした。子ども保護者も、少なくとも自分の名前をアラビア語で書けるようになりたいという希望があったため、アラビア語の読み書きや算数の学習ができるテント教室を村に設営しました。先生も、同じく村に住むシリア難民の方々にお願いしました。
スポーツや描画、遊びも積極的に取り入れ、子どもが子どもらしく過ごせる時間や空間づくりを行ない、また帰還の目処が立たない子ども達の社会適応を支えるため、2017年からはトルコ語の学習も導入しました。
次第にトルコにおけるシリア難民の子ども達の公的教育機関における受け入れが拡大し、テント教室に通っていた子ども達も学校へ行かれるようになったことから、当団体によるトルコでの教育活動は2020年4月をもって完了とさせていただきました。

活動紹介

シリア　-戦地の子ども達-

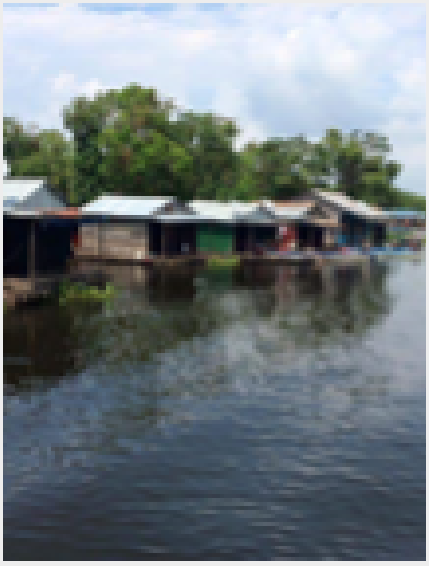
2011年から続く内戦は、様々な国や武装勢力の関わりにより複雑化してきました。街や生活が破壊され多くの方々が犠牲となり、国内外へ避難せざるを得ない状況となりましたが、そんななかでも、シリア国内に残り続けている家族や子ども達もいます。
シリア北東部のラッカ県は内戦が始まってから様々な武装グループによって占領され、現在もシリア政府の管轄下になく事実上の自治区となり、政治的にとても複雑な土地になってしまいました。そのため国内外からの復興や支援が入りにくい状態が続いています。シリア政府がコントロールしている地域では、授業料が無料の公立学校や病院などの社会機能が少なからず復興してきたのが、ラッカは放置されたままになっています。
爆弾や地雷により身体の一部を失ったり、障がいを負った人々は特に困難な状況にあります。多くの子ども達が軍事作戦のなかで爆弾や地雷により障がいを負ってしまいました。
学校は破壊されたままで、私立の教育機関もありますが、障がいをもつ子どもに配慮した教育は実施されにくい上、学費を支払うことのできる家庭は限られています。戦闘のなかで自分自身が負傷してしまった上、両親を失ったり行方不明のままで、親戚のもとで生活している子どもも少なくありません。
参加できる社会活動がなく、いつも不安感を抱えている子ども達の心理的発達にも大きな懸念があります。
子ども達の心身の健康を守るため、障がいをもつ子ども達への義肢提供や、学習・レクリエーション活動の提供を実施しています。

活動紹介
スーダン -慢性的貧困下にある子ども達-

スーダン内戦と南スーダンの独立を受け、多くの支援機関が人道支援に当たってきましたが、その一方でスーダン国内の貧困・子どもの健康に関する問題は注目されにくくもありました。2018年12月から始まったデモ活動により不安定な情勢が続いていましたが、その背景にも市民の方々の生活を厳しくする経済的危機がありました。
市郊外の農村地に住む家族は自分の土地を所有せず小作人として農作業をし、最低限の世帯収入を確保するため、多くの子ども達が家族の手伝いをしています。
スーダンの公立学校では基本的に授業料が無料ですが、教育省からの補助がほとんどないため、学校自体が貧困状態で生徒から授業料を集めざるをえません。厳しい状況のなかでも、持続的な教育と健康な生活を実現できるよう、人々がすでに持っている資源の活用を促進した生活の改善を図っています。
子ども達のライフスキル発達を支えるため、学校菜園活動を中心とした果樹や野菜の栽培、ライフスキルトレーニングの実施、ライフスキル教育補助教材の作成を行なってきました。食糧確保や栄養といった身体的な健康だけでなく、子ども達自身の主体的な参加による心理的健康の促進にも寄与しています。
2021年には現地連邦教育省と合意を結び、公教育のなかでライフスキル教育の質が改善、普及していくよう連携して活動を行なっています。

活動紹介

カンボジア　-水上で生活する子ども達-



カンボジアのコンポンチュナン州には湖と川に沿って、点々と存在する水上生活コミュニティがあります。住居もマーケットも、警察も学校も水の上で、水量の多い雨季には家々が流され場所が変わってしまいます。隣家に行くにも泳ぐかボートが必要で、生活水はすべて川の水です。魚を捕りながら、ほぼ自給自足の生活をしています。
陸地からボートで1時間要する、奥まった場所にあるコミュニティの子ども達のほとんどが外の世界を知らず、2015年に初めて公立の小中学校ができましたが、登校手段のない子どもがいたり、他県から派遣された先生達が、水上コミュニティでの生活に耐えられずいなくなってしまうこともありました。

子ども達の持続的な教育をサポートするため、カンボジアのパンナサストラ大学のボランティアチームと共に、子ども達の登下校を支える学校用ボートの運航と、教師の要望に応えた教師用研修を実施しました。
生徒や教師の学習意欲を高め、コミュニティにおける継続的な学習環境を整えることができました。
対象校が自立的・持続的に教育環境を整える体制ができたことから、当団体によるカンボジアでの活動は2021年3月をもって完了とさせていただきました。厳しい環境で生活する子ども達の健康な心身の発達を促進するため、今後ともアセスメントを続け実現できることを検討してまいります。

SDGSへの取り組み

ホープフル・タッチはSDGs達成に向けて、国内外のパートナシップ（17）を結びながら、子どもの飢餓・貧困の撲滅（1、2）、心身の健康な発達（3）、質の高い教育機会の創出（4）を達成し、子どもが生まれた環境や状況によらず、平等に持続的にエンパワメントされ発達できる社会の実現（10）を目指します。

ご協力のお願い

子どももおとなも、どんなに小さな力でも、大きな希望を生みだし、育てることができます。一人一人の力が集まって、大きなきぼうが実現します。

子ども達を一緒に支えていただける方を、探しています。

みなさまからのあたたかいご支援により、私たちは子ども達と共に活動を継続していくことができます。お預かりした寄付金は大切に活用させていただき、今後Webサイトを通じて、その使途をご報告いたします。

単発のご寄付とマンスリーサポート（月々定額のご寄付）をお受付しております。
子ども達の成長を見守るために、継続的な活動を目指しています。

ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

銀行振込によるご寄付

銀行名　みずほ銀行
支店名　青山支店
口座種類 普通
口座番号 2508786
口座名義 特定非営利活動法人ホープフル・タッチ
カナ ﾄｸﾋﾞ) ﾎｰﾌﾟﾌﾙ ﾀｯﾁ

※大変恐れ入りますが、振込手数料は寄付者さまのご負担となります。

郵便振替によるご寄付

記号と番号　00140-1-634891

口座名義 Hopeful Touch

カナ ホープフル　タッチ

※領収書をご希望の方は必ず、郵便振替用紙にお名前とご住所および「領収書要」とご記入ください。

クレジットカードによるご寄付・マンスリーサポート

クレジットカードでのご寄付では、株式会社STYZの寄付プラットフォーム「Syncable」のシステムを利用しています。
以下ウェブサイトの寄付フォームからお手続きいただけます。

https://syncable.biz/associate/hopefultouch-jp/donate

QRコードはこちら→

寄付フォームでは、マンスリーサポートは「毎月」、単発のご寄付は「今回のみ」をご選択ください。

特定非営利活動法人
ホープフル・タッチ

ホームページ
www.hopefultouch-jp.org

フェイスブック
hopefultouch.jp

メールアドレス
info@hopefultouch-jp.org

代表者
高田　みほ（代表理事・事務局長）

インスタグラム
hopefultouchjp